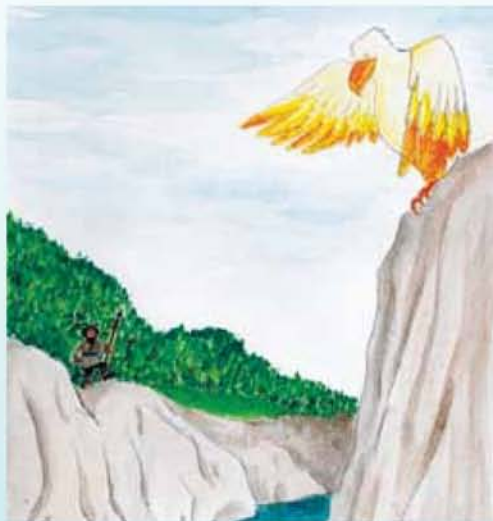


「しべちやのアイヌのものがたり」

古くより標茶に暮らしたアイヌの人々はさまざまな昔話を語り継いできました。

町内各地に残された、楽しい物語やちょっと怖い物語などを、紙芝居のようにたくさんのイラストを使って、紹介します。

なかなか触れる機会のない、地元標茶の昔話をどうぞご覧ください。



久著呂に伝わる神鳥伝説

◆展示予定

開催日程	開催場所
1月11日～22日	開発センター
23日～29日	磯分内酪農センター
30日～2月5日	虹別酪農センター

- 開催日初日は午後からの展示となります。
2月以降の開催日程は、随時広報でお知らせします。

大川のほとり
—郷土館だより(第52号)—
☎487-2332
開館時間
午前9時30分～午後4時30分

郷土館より 一筆啓上

先日、福島県からのお客様が、郷土館にられました。「気分転換に来たんだ」と明るい笑顔を見せてくれました。今も多くの方々が大変な生活の中に居られます。一日も早い復興を願います。(坪)

ナナカマドやイチイ(オンコ)など庭に赤い実があると、グレーのコートに赤いほつぺたのヒヨドリがやってきます。この鳥は声が大きくいし、態度も大きい(自分以外の鳥を追い払ってエサを独り占めする)ところがあります。

ドングリを拾っては埋める習性があるミヤマカケスは、ドングリなら2、3個のどの奥に入れて運ぶことができます。そのせいか、例えばエサ台のヒマワリのタネなどを、どんどん口の中につめこんでいる姿をみかけます(ちなみに埋めたことを忘れられたドングリから芽が出るため、この鳥はドングリの木を増やすことに一役買っています)。

2、面田(ウツバヤ)



シジュウカラ



ヒガラ



ハシブトガラ

シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ゴジュウカラといった鳥たちは、年間を通して見ることができるとおなじみの顔ぶれですが、特に冬のエサが少ない時期は、庭先にやって来ます。この時期これらの鳥たちは、種類が違うというのに、一緒に群れを作っていることも多いです(これを混群といいます)。皆似たような模様に戸惑われるかもしれませんが、逆をいえばどこが違うのか比べるのにちょうどいいです。注目するのは頭から胸にかけての黒い模様です。

1、常連さんを見分ける

冬は野鳥と仲良くなれる季節です。木の葉が落ちて、鳥の姿も見やすいう上に、エサを求めて野鳥が庭先や街路樹までやってきます。観察するには絶好のチャンスです。今回はこの季節、よく見かける身近な野鳥の楽しみかたを紹介します。

自然かんさつ
はじめの歩
その1 **鳥のかんさつ**

こんなことしています!

郷土館の仕事⑧

教育普及 (歴史)



郷土館では郷土の歴史と自然をみなさんに紹介するために、さまざまな活動を行っています。

歴史の分野では、遺跡、釧路集治監、軍馬補充部、開拓など、郷土の歴史が豊富です。これは標茶の歴史が資料を含めて、充実していることに他なりません。町の歴史を学ぶ“歴史講座”は、年5回行っています。また小中学生が郷土館に来て学んだり、こちらが授業協力のために学校へ行ったりする“学校協力”は、年に20回ほど行っています。

郷土館ミニだより

これな〜んだ?

その1



雪が降った次の日に郷土館の裏で見つけました。雪の上に左右交互についた2cmにも満たない小さな足跡。真ん中にすじが一本。これはいったいなんでしょうか……?

実はこれ、ノネズミの足跡。真ん中のすじは、しっぽを引きずったあとなんです。

もしこんな足跡を見つけたら、たどってみてください。

雪の下に潜るトンネルの入り口が見つかるかもしれません



3、エサの食べ方は色々

ヒヨドリは基本的に植物の実を丸のみします。実と一緒に飲み込まれたタネは後でふんと一緒に出されて芽を出します。ヒヨドリにとっては植物から実をもらえ、植物にとつてはヒヨドリにタネを運んでもらえる、持ちつ持たれつの関係があります。

ゴジュウカラは木の実を1つずつくわえて持っていきます。この鳥は木の実を樹皮の隙間などに挟み込み、頭を下にしてくちばしでつついて食べます。これはなかなか賢い方法で、頭を下にすれば頭を支える必要がなく、そのぶん木の実を割ることに力をまわせるのだからといわれています。

木の実を割ることはゴジュウカラが頭脳派なら、シメは肉体派です。この鳥は堅い木の実も、持ち前の太いくちばしで割って食べます。

4、もしエサ台を置くなら

野鳥のエサ台は、これらの野鳥を間近に観察することができますが、人がきちんと管理をしないと野鳥や人が病気になってしまうことがあります。野鳥と仲良くしたいのに、それでは元も子もないですよ。最後にエサ台を置くときのルールを紹介しましょう。

- ①古いエサやふんをそのままにしない。毎日エサ台を掃除して、1日で食べきれぬ量のエサをおきましょう。
 - ②エサをやったり掃除をしたら、よく手を洗う。
 - ③冬場だけに。エサ台のふんや古いエサに触っているのだから、よく手を洗いましょう。
- 春〜秋にかけては自然の中にエサが豊富にあるので、エサ台は必要ないのです。エサ台は冬場だけにしましょう。



シメ



ゴジュウカラ



ミヤマカケス



ヒヨドリ